WOMEN IN MOTORSPORT「L1 RALLY in 恵那 2018」［JAF公認No.2018-2306］

開催日：2018年12月1～2日　開催場所：岐阜県　格式：準国内　主催：MASC［クラブ登録No.加盟23011］、CMSC岐阜［クラブ登録No.加盟21016］、LUCK SPORT［クラブ登録No.加盟23052］、Love drive［クラブ登録No.加盟23086］

レポート＆フォト／山口貴利

観戦エリアも新設。L-1ラリーが恵那の地で再び開催！

2018年12月1-2日に、女性ドライバー限定のラリー「WOMEN IN MOTORSPORT『L1 RALLY in 恵那 2018』」が開催された。この大会は2017年から始まり、第2回目になる今回は34台がエントリーした。

2018年度のNHK連続テレビ小説「半分、青い」のロケ地にもなった岐阜県恵那市は、遡れば女性城主・おつやの方が統治した岩村城がある。古くから女性が主役の恵那市は、まさに女性ドライバーに似合う舞台だろう。

ラリーは恵那市役所をスタートとゴールとし、5本のSS、計18.54kmのタイムを競う。クラス分けは排気量1500ccを超えるL1-2クラスと1500cc以下のL1-1クラスと前回同様だが、昨年から変わったのは観戦エリアが設けられたことだ。根の上高原周辺に設けられた観戦エリアでは、多くのギャラリーが女性たちの熱い走りに声援を送っていた。

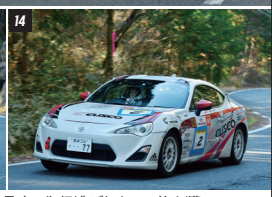
道幅の狭い上りの林道のSS1でのL1-2クラスのバトルは、ランサーに乗る中島紀子／山田訓義組がまず制した。2番手はインテグラの南美由紀／岡田誠組が6.1秒差で続いた。SS2は根の上高原に上がってくる2車線の道が用意されたハイスピードコース。SS1と異なる性格だが、ここでも中島／山田組がベストタイムをマーク。南／岡田組はハイスピードからの減速でスピンを喫しタイムを大きくロスしてしまい、8番手まで順位を落としてしまう。ここで2番手に上

江戸時代の面影を残す町並みで知られる恵那市岩村地区でのセレモニアルスタートでは多くの観客が詰めかけた。

L1 RALLY in 恵那、今年は11月9～10日の開催が決定！

2019年の「WOMEN IN MOTORSPORT “L1 RALLY in 恵那 2019”」は11月9日（土）～10日（日）に開催されることが決定した。過去2回同様、岐阜県恵那市がホストタウンとなり、今回は恵那市役所をスタート＆フィニッシュとする約150kmのラリー競技として行われる。最新の情報は大会ホームページhttp://www.ena-rally.com/を参照してほしい。

L1-1クラス／ *1.* 大貫由季／桐山久美子組は5位入賞。*2.* 4位の岸本友希／山本磨美組は「広いところが大嫌いなので、最後は無難に走ったら0.7秒差でこの順位でした。来年リベンジします」。*3.* みなぴよ／武平良介組は6位に入った。*4.* 2位入賞の湯澤美幸／木村悟士組。安定したペースで2番手を守った。*5.* 3位に入賞した仲村理香／伊藤幹夫組。仲村選手は、「初めてのラリーでしたが、クルマが良かったかな（笑）」と謙遜。*6.* L1-1クラス入賞の皆さん。*7.* L1-1クラスは2017年、2位に泣いた毛受広子／赤木弥生組が大差でリベンジを達成。



L1-2クラス／ *8.* L1-2クラス入賞の皆さん。*9.* SS1から3連続ベストをマーク。見事、先行逃げ切りで1位を獲得した中島紀子／山田訓義組。*10.* 3位の原口静枝／萩原泰則組。*11.* 2位に入賞した福井貴子／河辺典子組。*12.* 4位入賞は、SS2のスピンから順位を挽回した南美由紀／岡田誠組。*13.*「食い込んでいけるかと思いましたがもう少し頑張らないといけなかったですね」。6位入賞の波積美穂／嶋住美香組。*14.* L1-2の5位は猪爪杏奈／中村理紗組。「人生初の86でしたけれど楽しんでアッという間に終わりました」

がったのがランサーの福井貴子／河辺典子組。トップの中島／山田組とは9.6秒差だ。

福井／河辺組は、SS4で初のステージベストを出してトップに迫るも、最終SSで中島／山田組が4本目のベストタイムを出して優勝。「自分の走りをいつも通りできたと思います。勝負どころはハイスピードのコースだったのでサービスでセッティングをそちらに合わせました。その結果が出て優勝できて良かったです」と中島選手は振り返った。

2位の福井／河辺組は「SS4でベストタイムを取れたので満足してます。去年より走りやすく楽しかったです」と今回のラリーを評した。ラリー北海道でのドライバー、コ・ドライバーを入れ替えて参戦した原口静枝／萩原泰則組が前回の4位から順位を上げての3位に入賞。「広くて楽しかった。壊さないで帰れるのが一番良かったかな」と笑顔を見せた。

L1-1クラスは、昨年2位に甘んじた悔しさから91ヴィッツを借りてきた毛受広子／赤木弥生組が大本命。すべてのSSをベストタイムで走りきる圧倒的な内容で優勝を果たした。「昨年、優勝したシティが出てなかったので、勝たなきゃ、ってプレッシャーはありました。最初は慣れなかったマシンですが、徐々に乗れてきて面白かった。今年は最後に表彰台に登れて良かったです」と毛受選手は、喜色満面。対照的だったのは、2位の湯澤美幸／木村悟士組だ。「悔しい。トータルで約40秒も離されて。心が折れそうになりましたが、後ろからも追われた展開になったので、頑張りました」と打ち明けた。

レーシングスーツをまとった女性たちが競う「L-1ラリー」。本年11月開催予定の第3回も必見だ。

L1-1クラスで6位に入ったみなぴよ選手は、5月に開催されたレース「WOMEN'S GT 2018」と合わせたポイントで首位に立って、L1シリーズでの初代チャンピオンに輝いた。「レッキでは高速コースにビビりまくってました。完走できてチャンピオンも取れてびっくりしてます」と驚きを隠せない様子だった。